

学校番号	13	学校名	静岡県立浜松特別支援	校長名	佐藤 徹
------	----	-----	------------	-----	------

【評価】

- A：十分目標を達成することができた。  
 B：おおむね目標を達成することができた。  
 C：あまり目標を達成することができなかった。  
 D：ほとんど目標を達成することができなかった。

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア <授 業> 個別最適な学びと協働的な学びを実現する学校					
児童生徒が夢中になれる学校生活づくり	時期毎、取り組むべきことを明確化・焦点化した“学校生活づくり”ができた。	学校生活づくりの視点で時期毎のテーマを明確にして取り組むことができた。	A	常に学校生活作りを意識して授業づくりを行った。合わせた指導と各教科の関連付け、活動そのものを振り返ったり楽しみにしたりする掲示の工夫など、その時期の学習に夢中になって取り組める環境を設定することができた。年間指導計画立案時に、学校生活づくりの視点で検討する。	学部 学年
協働的な学びの充実	集団で取り組む(友だちと取り組む)良さを生かした授業を考え、実施できた。	友達と関わりながら学ぶためのグルーピングや場の設定、学習内容の工夫をすることができた。	A	友達の発表や学習の様子を見聞きする場面や、話し合いの場を設定することで、児童生徒同士が学び合う姿が見られた。集団の良さを生かしながら、個に応じた支援や教材について教員間で検討、共通理解し、授業づくりを行っていく。	学部 学年
個に応じた指導の充実	児童生徒の実態・課題を捉えた個別の教育支援計画や個別の指導計画の目標となっていた。	年2回以上見直しをし、実態や課題に合った目標を検討することができた。	A	目標設定や評価の仕方の具体的な説明により、実態に合った個別の支援計画や指導計画を作成することができた。今後は、子どもの将来に願う姿を基にした支援目標の設定や、流れ図と各計画とのつながりの明確化が課題である。	○教務 特別支援 自立活動
自立活動の充実	流れ図を使って今指導すべき目標を導き出し、指導場面を明確にして指導を行った。	児童生徒一人一人の流れ図を作成し、目標や指導場面を明確にした。	B	全児童生徒の流れ図を作成したことで、実態を明らかになり、重点目標を導き出すことができた。指導場面での流れ図の活用には至らなかった。今後は、自立活動の基礎・基本の理解を深めた上で、流れ	自立活動

				図の活用を促すことが課題である。	
合わせた指導の充実	最良のテーマは何かを捉え、成就すべきことを明確にした単元の検討をした。	最良のテーマを基に単元について事前検討することができた。	A	学部ごとに検討することを明確化した様式を使用した。また、研修の日を単元づくりの検討日として計画的に活用した。事前に単元について検討することで児童生徒が今、何に夢中になり、何を成就すべきかを明確にした授業を行うことができた。	研修
国語・算数/数学の充実	学習指導要領の「目標と内容の一覧」を踏まえ、実態把握→目標設定→評価ができた。	学習指導要領に沿った目標と内容を設定し、評価することができた。	A	実態から目標設定や評価の方法を具体的に伝えていくことで、学習指導要領に沿った目標を立て、評価を行うことができた。今後は実態からおさえるべき領域、段階を捉えて年間計画を立てることが課題である。	教務 ○学習指導
ICTの活用の促進	機器やネットワークごと違うIDやパスワードを理解し効果的、効率的にICTを活用した。	ID、パスワードの有効性について発信を続けたことで理解につながった。通常業務や授業でのクラウド利用の頻度が上がってきている。	A	Google driveを利用したWebでのアンケートが汎用化されペーパーレスが進んできている。ICT機器とクラウド利用を通して「個別最適な学び」「協働的な学び」につなげていく。	情報教育
本に親しむ児童生徒の育成	授業の中で本に触れる機会を確保した。	読み聞かせや調べ学習などで利用することができた。(教員8割程度)	B	図書館の書籍棚をジャンル別に整理して視認性を高めたり、年度内に随時、蔵書を補充したりしたことで、本を手に取りやすい環境を整えた。今後も定期的に、蔵書紹介をNES掲示板で発信すると共に、学部ごとに活用事例を紹介する場を設ける。	輝き発見
イ <安全> 命を守り、人権を尊重した安全で安心な学校					
緊急時の対応力の強化	児童生徒・職員は、緊急時に自分で考えて自らの身を守る行動がとれる状態になった。	放送や教師の指示を聞いて落ち着いて避難行動をとることができた。	A	避難訓練に繰り返し取り組むことで、すぐに一時避難の行動をとることや指示を聞いて避難をすることができた。今後、さまざまな状況を想定した訓練を実施して災害時に備えたい。	防災
安全・快適な環境づくり	安全・快適な環境をつくるために廃棄、片付け、清掃	分担箇所の廃棄や清掃に自ら取り組む教員が増えた。	A	安全点検表を基にダブルチェックで取組んだことで、自分ごととして清掃や整理整頓に取り組む教員が増えた。元の	プロジェクト会 総務

	<b>などに自ら取り組んだ。</b>			場所へ片付けることについては、徹底が不十分であり、物品の管理方法の見直しと意識の醸成を図る必要がある。	
事故防止の強化	危機管理マニュアルやヒヤリハットから学び、児童生徒の安全・安心を守った。	危機管理マニュアルやヒヤリハットから学び、事故防止につなげることができた。	A	危機管理マニュアルを説明する時間を設けたり、マニュアルに沿った訓練を行ったりすることで事故防止の強化につなげることができた。今後は、学年、学部等の実態に合った訓練を計画、実行し、事故防止につなげることが課題である。	保健体育
人権等への徹底した配慮	児童生徒の模範となるよう、自他を大切にすることを常に心がけた。	人権研修や自分の言動を振り返るアンケートを実施し、人権意識を高めることができた。	A	人権研修や人権の自己振り返りのアンケートを実施したり、各学年で人権の内容について話合いの機会を設定したり人権意識の向上を図ることができた。教員と第三者の評価のずれもないことより生徒児童の模範となる言動ができていた。 人権意識の差はあるので、人権尊重に関する話題を定期的にあげて自分の言動を振り返る場やときを引き続き設定していく必要がある。	生徒指導
ウ <協働> 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校					
就学前への相談支援の充実	保護者が安心して就学を迎えられるよう、相談会や説明会等の設定ができた。	説明会アンケートで「理解に役立った」96.7%	A	就学相談に関する学校説明会では、就学前や就学後の子どもや保護者をサポートする機関に対し、本校の各学部の教育活動について説明を行った。浜松市の就学支援の計画に合わせた説明会の開催時期等になるようにする必要がある。	○特別支援学部
学校への応援体制の構築	<b>教育活動に対して応援してくれる保護者・地域の関係機関・人が増えた。</b>	新たに2団体、1公共施設を活用して学習に取り組んだ。新規応援隊活動18件に対して保護者等、約60人が参加した。	A	新たな団体等を活用することができた。応援隊づくりにPTAと協働で取り組んだことで、保護者ボランティアが増えた。既に繋がりのある人・機関と、新たな活動に取り組むこともできた。今後は、応援隊募集の拡大、隣接する学校との連携協働の強化により応援体制の更なる構築を図	管理職 ○CS担当

				る。	
進路指導の充実	本人・保護者が様々な情報を元に主体的に進路を決定することができた。	保護者「進路に関する情報を得て進路について考えることができた。」 95%	A	進路の手引き、進路だよりの発行、各学級の担任を通じて、進路についての情報を発信し、本人・保護者が進路について考える場面を設定した。卒業後の進路先だけでなく、〇年後、〇十年後にどんな生活を送っていたいかという対話を積み重ねていきたい。また、保護者や職員のニーズに合わせた情報発信もしていきたい。	進路支援
エ <チーム> 全教職員が主体的に学校づくりに参画する学校					
新たな浜特の創造	コロナ禍で変化した指導の在り方・働き方を今後どうあるべきかを視点に見直した。	感染症予防で控えてきた学習内容や授業形態、行事の在り方について再検討し、見直すことができた。 時期ごとの焦点化した学習テーマやT1の再調整、見直し、行事等の実施方法等を検討することができた。	A	前年踏襲をやめ、音楽、体育等の集団活動の指導体制を再検討し、授業を行ったことで、児童生徒の活動の幅を広げ、学び合いや育ちを促すことができた。また、学習や行事の在り方を見直したことで、地域との関わりを増やすことができた。 学校生活づくり一覧表を作成し、時期ごとの焦点化したテーマを意識して学部行事や学習計画の立案・見直しを行った。 お互いの業務を知ったり、業務が重複し余裕がない教員の担当を再調整したりするなど、相談し合うことができた。	管理職 学部
事務処理時間の確保	特別な場合は除き、週に複数回、事務処理時間が取れた。	週に複数回事務処理時間が取れたと感じている教員は6割程度だった。	C	学年、学級などで学習内容や指導体制などを工夫することで事務処理時間の確保に努めたが、教員の出張等で児童生徒指導、安全管理の視点で指導に入ることが多かった。教育活動充実のための教材研究、準備、自己研修の時間の確保が必要である。	学部 学年

様式第3号

<p>老朽化・狭隘化への対応</p>	<p>不用品の廃棄と必要物品の購入、不具合箇所の修繕を計画的に進めた。</p>	<p>総務課と連携し、現状を把握し課題を検討することで不用品の廃棄、修繕、必要物品の購入を計画的に進めることができた。</p>	<p>A</p> <p>総務課と連携し不用品の廃棄や物品整備、施設整備のための予算を確保し計画的に執行することで快適な学習環境が整いつつある。老朽化、狭隘化の根本的な改善について引き続き要望していく。</p>	<p>事務部</p>
<p>倫理観の向上</p>	<p>不祥事0件</p>	<p>処分対象となる不祥事は0件だった。交通事故6件（うち加害1件）が発生した。</p>	<p>B</p> <p>交通安全について、事例をもとに注意喚起を行っていたが、加害による交通事故が1件発生してしまった。交通安全については、募集した交通安全標語を毎月掲示し、継続的に呼び掛けを行っていく。学年会を活用したグループワークを年4回実施し、不祥事を自分事として考える機会を定期的に設定することができた。</p>	<p>管理職</p>